

## 今年の顔にみる 2021年

コロナ感染拡大からもうすぐ2年となる2021年も、もうすぐ終わり。オミクロン株の状況は気になるものの、来年は今年よりも経済や生活様式の正常化が図られていくことでしょう。さて、今月のCBCA NEWSは、年末恒例の一年の振り返りです。今回は、今年注目された各界の顔にスポットを当てつつ、回顧してみました。

### ✚ 岸田首相と菅前首相

新型コロナ対応に苦慮し短命に終わった菅政権の後は、激しい総裁選を経て、「岸田文雄」自民党前政調会長が新首相となりました。岸田首相は、「聞く力」をアピールポイントとする、穏健な調整型リーダーと目されています。ところが、その「聞く力」故か、発言や方針がしばしば変更されることから、周囲は対応が色々と大変なようです。オミクロン株への水際対策を一転強化するまでは良かったのですが、子育て世代への10万円給付における方針の二転三転には世論の評価も割れているようです。

そもそも、どの段階で「聞く力」を発揮するかで、外部からの見え方には大きな違いが生じます。方針決定までに「聞く力」を全て発揮すればその後に二転三転しなくてもよい、との意見はあるでしょうが、それでは方針を表明するまでに時間が掛かり、決定が遅いとのおしりを免れません。また、方針表明後の「聞く力」を封印するならば、方針が間違っていた場合に軌道修正出来ず、一層大きな批判を受けることとなるでしょう。岸田首相の二転三転する姿は、ややもすれば優柔不断に見えますが、好意的にみれば、決め打ちせず絶えずベターな策を探る柔軟なリーダーとなるでしょう。岸田首相に真の評価が下されるのは、はまだまだこれから先のことと思います。

一方、「菅義偉」前首相は、岸田首相と真逆の方でした。方針を表明した後は、権力を駆使し徹頭徹尾推進を続け、多少の批判があるならば逆ギレしてでも押し切ろうとする政治家でした。方針が間違っておらず結果を伴っているうちは「勝てば官軍」とばかりに高い評価を得ますが、結果を伴わないと強引なプロセスに対する風当たりが強くなります。新型コロナ対応という先を見通しにくい施策に追われた不運はありますが、ややもすればパワハラの強引さで政権を担い、世論の支持を長く得ることは、今の日本では難しいでしょう。在任中の菅政権の政策を評価する方の多くも、最後は菅内閣を支持しない側に回っていたように感じます。

### ✚ 大谷翔平と大阪なおみ

エアトリ社が行ったインターネット調査によると、「2021年に世界で活躍した日本人」の男性部門1位はメジャーリーガーの「大谷翔平」さん、女性部門1位はプロテニス選手の「大阪なおみ」さんでした。その活躍は誰もが認めるところでしょう。

大谷翔平選手は、言うまでもなく投手と打者の二刀流で今年大活躍し、満票でア・リーグ MVP に選出されるなど、今年のスポーツ界の顔とも言える存在でした。

大谷選手は2018年からメジャーに移籍しましたが、直ぐに大活躍出来たわけではありません。移籍した年に右肘の故障で手術を受け、リハビリを続けながら復調を目指す苦しい日々が続いていました。

やはりメジャーで二刀流なんて無理との声が強まるなか、逆境を撥ね退けての大活躍となりました。結果は勿論、ひたむきな努力と真摯な態度でプレーを続ける大谷選手の姿を見て、これぞ日本人の誇りと、誰もが賛辞を惜しみません。

一方、大阪なおみ選手は、2018年の全米オープンでの優勝を皮切りに、テニスの四大大会で4回の優勝を果たし、2019年は世界ランキング1位を獲得するなど、現在の女子テニス界を牽引するプレーヤーの一人です。夏に行われた東京オリンピックでは最終聖火ランナーを務め、大阪選手が日本を代表するアスリートであることが世界に発信されました。

しかしながら、彼女に対する最近の評価は以前ほど好意的なものではありません。試合そのものよりも、プレー上のマナーやコート外での行動や発言に対して注目が集まり、「らしくない」と厳しい視線を向けられることが少なくありません。大阪選手は、当初マスコミに「日本人らしく愛らしいキャラ」をやたらに持ち上げられ、ファンのイメージが本来の彼女とかけ離れてしまったことがアダになっているかもしれません。今後は是非とも純粋なプレーヤーとして活躍し、再び日本人の誇りと言われる存在になって欲しいものです。

#### ✚ 愛子さまと眞子さま

天皇皇后両陛下の長女「愛子さま」も早や20歳。式典で初めてローブ・デコルテをお召しになり、その穏やかで優美な佇まいに、「色々あったが立派に成長なされた。やはり天皇家は教育がしっかりされている」と感じ入った方も少なくないことでしょう。成人皇族として、愛子さまの今後の活躍が期待されます。

一方、「眞子さま」こと小室眞子さんは、大変な逆風の中の新たな門出となりました。問題が発覚した当初は小室家の問題であり、巻き込まれた眞子さんには同情する声が多かったと記憶しますが、そのうち眞子さんの気丈さを強情と受け止められる人が増え、そもそも秋篠宮家の教育に問題があるとの厳しい見方も広がっていきました。お二人の結婚会見では、小室佳さんを必死にかばう眞子さんの凛とした気丈な姿が印象に残りましたが、会見での発言は国民を敵に回したとの声も少なからずあったようです。お二人を祝福したいか、そのような気落ちにはなれないか、最後まで世論は二つに分れたままでした。

眞子さんは皇室を去りましたが、大変なのはこれからの皇室です。特に、秋篠宮家に対する厳しい視線はしばらく続くかもしれません。その場合、次の天皇陛下に誰になるかという大変大きな問題に、世間では様々な声が挙がるであろうことは容易に想像できます。戦後の天皇制における最大の難題、いや試練にさえなるかもしれません。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先